

シンポジウム

2018年6月30日

現代社会は多様化の時代といわれます。天災による人々の価値観の変化、少子化・高齢化・単身化といった社会のあり方の変化、さらに格差や貧困といった経済環境の変化などから、人々の暮らしを一括りにして捉えることが難しくなるとともに、人々の「声」も多様化しています。こうした時代の事業にとって重要なのは、人々の「声」に応えるだけでなく、自分たちなりの未来へのビジョンを示し、それを実現するために力を尽くしながら、共感を広げていくことにあります。

90年代以降の大規模化にともなって組合員の多様化が進んだことから、多くの生協もこうした問題に直面しています。各生協は互いに学びあいながら「生協らしさ」を模索していますが、多様化の中で「らしさ」を考えるためには、同種の存在だけでなく、異なる視角から学ぶことも大切です。そこで、今回の総会記念シンポジウムでは、「現代の暮らしにおいて、わたしたちには何ができるのか－『無印良品』のあり方と仕組みから考える－」と題して、生協と通ずる面影を持つ「無印良品」という存在から、現代における事業のあり方を考えるべく、株式会社良品計画の萩原富三郎氏にご登壇いただきました。

また、今回のシンポジウムでは、一方通行に講演を聴くのではなく、より課題に切り込んだ内容とするため、本研究所理事長の若林靖永様にもご登壇いただき、両者のクロストーク（対話）の形で企画を進行しました。

今では、「無印良品」はその世界観に共感するファンを世界中に広げています。多様化の時代において、いかに自分たちの「らしさ」を発揮するのか、その際には何を大切にしなければならないのか。これから事業を展開するうえで欠かせない論点について、多くの示唆に富んだ対話になったと思われます。本企画が、各生協での議論を活性化し、生協がより魅力的な存在となるためのきっかけとなれば幸いです。

（本誌編集委員 加賀美太記）



シンポジウム風景



基調報告（クロストーク）風景